

世界のトップレベルの競技力を誇る日本のトレイルオリエンテーリング。日本代表に選ばれることは世界一が狙える舞台に立てることを意味する。

2011年5月7日 東京都東村山市
全日本トレイルオリエンテーリング大会

Eクラス

1	木村治雄	入間市 OLC21 点	31 秒
2	山口拓也	浜松 OLC 21 点	93 秒
3	田代雅之	静岡県 20 点	71 秒



山口拓也(左) 木村治雄(中) 田代雅之(右)

PEクラス

1	森長三	長崎県協会 12 点	104 秒
2	高柳宣幸	港南 OLC 10 点	163 秒



高柳宣幸(左)、森長三(右)

木村治雄が優勝

5月7日 小雨降りしきる 狭山湖公園で開催の全日本トレイル:オリエンテーリング選手権大会は、静かで熱い戦いが繰り広げられた。

シードにより遅いスタートになったランキング1位の木村治雄と2位の山口拓也は、他の選手が競技を終了したレインでまだ競技を続けていた。

そこにあったのは二人きりで走り、歩き止まり、戻り、地図を見て、現地に目を凝らし、又地図を見、コンパスを当て、等高線沿いに手を差し伸べたり、うんうんとうなづいたかと思うと、今度は首を傾げたり、眉を寄せたり、手をあごに持っていったり、それはも

う、コントロールフラッグ群と、地図、現地の地形、それらすべてと自分との渾然一体となった、無我の境地というか、見るものをして、トレイルの法悦の境地に入ったかのように感じるほど、没頭している姿だった。

優勝:木村治雄

「最高の成績であり大変嬉しく思います。今回の全日本トレイルオリエンテーリング大会に向けて地形イメージの練習をしました。」

2位:山口拓也

「満足です。今回の全日本トレイルオリエンテーリング大会に向けて作戦は練りました。」

3位:田代雅之

「勝てなくて非常に残念です。世界選手権並みの長いコースで、戦い甲斐がありました、実力の反映できる良い難易度のコースだったと思います ありがとうございます。」

木村、山口の二人は 年間ランキングでもそれぞれ1位、2位と、その実力を遺憾なく発揮し、まさに横綱相撲の感である。時間の使い方も、競技時間150分を目いっぱい使い、あの冷たい雨の中、集中力を切らさず、うっかりミスもなく戦いきった事は、賞賛に値する。

3位の田代は、ランキングがあまり上位ではなかったため、全日本優勝して世界選手権代表の座を射止めたかっただけに残念そうだ。

地形のイメージの練習って具体的にどうするの? トレイル0での作戦とはどういうこと? これはまた別途聞いてみたい。

Pクラスは おじさんライバルの高柳と森の二人が 闘志を内に秘めての戦いを繰り広げた。長崎からの遠来の森がPクラスチャンピオンに輝いた。



台湾から参加された2名と大会実行委員長の高橋(右)

評価の高いコース・改善点

今回の全日本トレイル0選手権大会について、ベテランからは高い評価が得られた。

「決め手に欠けるコントロールが多かった印象、時間をしっかり使わないと解けないような、150分ならではのコースに仕上がっていた」

「適切だった」

「実力の発揮できる良いコース」

ただPクラスでは車いすからフラッグが見にくいという指摘もあった。

「震災の余波で大会が延期になり、運営に当たられた多摩OLの皆様、大変だったと思います、ありがとうございます。」

世界トレイル・オリエンテーリング選手権大会日本代表決定

日本チーム

総合クラス選手

木村治雄、山口拓也、大久保祐介

Pクラス選手

森 長三、高柳宣幸、木島英登

監督

田中博

補欠兼チームマネージャー 田代雅之

補欠

小泉辰喜

世界トレイル0選手権大会 2011

場所: フランス サヴオア

日程: 2011年8月15~17日

今年のチームは、全ての選手が、世界選手権大会経験者であり、特に総合クラスの木村、山口、大久保は誰が優勝してもおかしくない実力を備えており、非常に楽しみだ。

木村の、トレイル0に対する態度は誠に真摯なものがあり、日曜日に今から山に入ってトレイル0の練習に行くと言っていたが、どうやって、一人でトレイル0の練習をするのだろうか? 私(田中)は、そのやり方を教わりたと思った。木村メソッドと言うべき、木村一流の解法を自分のものにした、木村の強さが世界でどのくらい通用するか、8月の本番が待たれる。

フランスの青い空に日章旗がはためく そんな夢が現実になりますように。

(田中 博)